

全国建具・三重大会6月に開催

第50回全国建具展示会の記念事業 木工の「過去・現在・未来」を問う

全国建具組合連合会の全国大会が今年には三重県で開催される。6月16日に通常総会と青年部総会、6月17日には全国建具業者大会が行われ、全国建具展示会が始まる。伊勢志摩サミットで注目され、木工や木造建築物の歴史に彩られた三重で開かれる大会の意義と企画内容について三重大会実行委員長を務める長野政次三重県建具工業協同組合理事長に話を聞いた。

― まず、三重大会開催への意気込みを聞かせてください。

長野 昨年は第60回の節目となる大会を東京で開催し、建具の全国組織である全国建具組合連合会にとつ

て記念すべき大会となりました。今回は全国建具展示会が第50回の節目を迎え、建具展示会の方も記念事業として開催させていただきました。

― 今回の展示会の見所はどこにありますか。

長野 見所としまして、今回は展示内容全体を「過去・現在・未来」と銘打ち、それぞれの時代の建具を展示し、これまでの建具の歩んできた歴史を考察すると共に、これからの世界に建具文化を伝える企画を打ち出しています。まず「過去」は三重県いなべ市の資料館から明治・大正・昭和初期の生活に使用された木工製品を40点あまり借りてきました。古き良き時代における木工製品の役割を振り返り、木工製品が生活に根差したものであることを再認識する企画を立てました。

― 昭和以前の木製品で「過去」を振り返り、「現在」を見つめ直す訳ですね。

長野 「現在」は我々が製作する建具です。日本伝統の組子技法を現代の建具に使った作品、洋風化した現代の住宅にも合う木製ドアや木製家具、こうした製品を匠の技術を駆使して作り上げる建具技能の魅力を伝えます。

― 「未来」に向けた企画内容です



三重大会・長野実行委員長